

6 地域共生社会の実現、障がい者の生涯学習の推進

(1) プログラム開発の背景

インクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援教育を着実に推進していくことが求められており、全ての学校において、特別な教育的支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援の充実を図る必要がある。

また、小・中学校等において、特別支援学級の在籍者や通級による指導を受ける児童生徒が増加しているほか、通常の学級においても、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が一定程度在籍しており、幼児期から学校卒業後までの切れ目のない一貫した指導や支援を行う必要がある。

このことから、道立青少年体験活動支援施設においても、障がいのある児童生徒が、体験活動を通して自身と向き合うことができるプログラムを開発するものである。

(2) 道及び道教委の主な関連施策

・北海道総合教育大綱 基本方針Ⅰ 新たな社会を生きる力を育む「特別支援教育の充実」

障がいのある子どもと障がいのない子どもがともに学ぶインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、特別な支援を必要とする子どもたちに、切れ目のない一貫した教育が行われるよう、教育環境の整備・充実と、ICTを活用した就労などの多様な働き方に合わせたきめ細かな取組など、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援の充実を図ります。

・北海道教育推進計画 施策項目2「特別支援教育の充実」

特別な教育的支援を必要とする児童生徒等に対して、幼児期から学校卒業後までの切れ目のない一貫した指導や支援が行われるよう、各学校間ではもとより、学校と家庭、地域、関係機関等が連携して取り組む体制の整備を進めるとともに、一人一人の教育的ニーズに応じた専門性の高い教育を推進します。

・第3次北海道生涯学習基本構想 視点2 1-(3)「子どもたちの居場所づくりの推進」

子どもたちの中には、家庭や学校の中で孤独感を抱えたり、情報端末を媒介とした友人との薄いつながりしかつけないなど、人間関係の形成に課題も見られることから、行政・学校と地域・NPO等が連携し、異年齢・異世代とつながる場や心を落ち着けられる居場所づくりに取り組むことが必要です。

(3) 各施設における事業名と主なアクティビティ等

砂川	チャレンジアウトドア
令和2年7月28日（火）（日帰り）	小魚の捕獲と観察、弓矢作りと体験、レジンクラフトなど
森	ファミリーキャンプ
令和2年7月25日（土）～26日（日） （1泊2日）	川遊び、創作活動（キャンドルホルダー）、焚き火体験、森探検など
北見	チャレンジキャンプ in ネイパル北見
令和2年8月1日（土）～2日（日） （1泊2日）	ボッチャ体験、ビーチコーミング、ホタテの稚貝を使ったシェルチャイム作りなど
厚岸	障がい者スポーツ交流会
令和2年12月12日（土） ～13日（日）（1泊2日）	講話、ボッチャ体験、車いすバスケットボール体験、創作スポーツ体験など

チャレンジアウトドア

1 事業のねらい

自然体験活動を通して、環境に対する興味・関心を高めるとともに、障がいの有無に関わらず、生涯に渡って学び続けるきっかけの場とする。

2 事業の概要

- 期日 R2.7.28(火) 日帰り
- 対象 支援学級等に通う小学2年生～中学生
- 人数 4名
- 場所 ネイパル砂川
- 協力 北海道子どもの国協会

3 プログラム

9:30 10:30		11:45 12:45		13:30 13:50 14:00		
受付	出 会 い の 集 い	小魚をつかまえ観察しよう ※雨天時 ニュースポーツ	昼 食 (弁 当)	創作活動 弓矢であそぼう レジンクラフト	ふ り か え り	別 れ の 集 い 解散

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 環境に対する興味・関心を高める手立て
 - ・屋外での活動を取り入れることで、普段の生活では気付けない自然の移り変わりを発見できるようにした。また、目的地への移動を徒歩にし、植物や動物、昆虫などに目を向けさせ、発見があった時には、その都度立ち止まり対話を通して学びを深められるようにした。
- 生涯にわたって学び続けるきっかけづくり
 - ・全ての活動でふりかえりの時間を設定し、お互いの気付きを交流できるようにした。更に、帰宅してからでも学びを深められるよう、発展課題を提案し、未使用の材料をお土産として持ち帰らせた。



観察を通したふりかえり活動



独創性を高めるカラーリング作業

5 事業の評価



■IKR 調査による変化

・「自然への関心」が1.3P、「非依存」「適応行動」が0.4P 向上した。

■参加者の声

- ・魚とりは初めてやったけど、魚が速くてびっくりした。
- ・いつも気付かないけど、小さな虫が道路のそばにもたくさんいることがわかった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「自然への関心」が向上していることから、屋外で様々な物にふれ、新たな気付きを発見できたことで、興味・関心を高められたと考えられる。
- 創作活動では、発達段階を考慮し小学生と中学生で活動を分けたが、参加対象が小2から中学生と幅が広いいため児童生徒が在籍する学校の担当教諭と連携するなど、実態を把握する必要がある。



企画のポイント

新たな気付きを発見できる環境づくりと、発達段階を考慮した活動の工夫

ファミリーキャンプ

1 事業のねらい

障がいのある人とその家族、障がいのない人とその家族が触れ合いながら自然体験活動に取り組み、感動を分かち合うことによって、興味・関心や活動の幅を広げる。

2 事業の概要

- 期日 R2.7.25(土)～26(日) 1泊2日
- 対象 幼児～小学校3年生とその家族
- 人数 12家族34名
- 場所 ネイパル森、宿野辺川
- 協力 グリーンピア大沼

3 プログラム

	9:00				11:00	12:00	13:00	14:00	16:00	17:30	19:00	20:00	21:00	
7/25 (土)						受 付	開 会 式	活動① レクリエ ーション	活動② 川遊び	入 浴	夕 食	活動③ キャンドルホ ルダーづくり	就 寝 準 備	就 寝
7/26 (日)	起 床	朝 食	清 掃	活動④ 焚き火	閉 会 式									

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 障がい者も安心して参加できる配慮
 - ・障がいのある子供の支援ツール（手順表、しおりなど視覚的に分かりやすいもの）を作成するとともに、ボランティアに対してサポート方法に関する事前研修を行った。
- 活動の幅を広げる水辺の体験活動
 - ・クリーンピア大沼（近隣のホテル）の協力を得て、河岸を整備し、安心・安全に水辺の活動へ参加できるようにした。

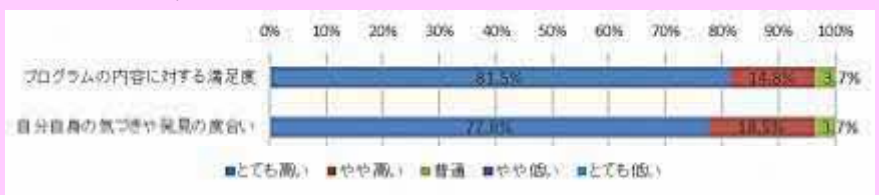


季節感のある水辺の活動



安心・安全に活動できる工夫

5 事業の評価



■アンケート調査結果

- ・自身の気づきや発見についての肯定的な回答は96.3%

■参加者の声

- ・日常ではできない様々な体験ができて良かった（子）
- ・ボランティアのサポートが良かった。（親）

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 支援ツールを使用したことによって、障がいのある子供が他の参加者と一緒にスムーズに活動へ参加し、活動の幅を広げることができた。
- 障がいのある参加者が安心して自然体験活動に取り組むことができるよう、事前の研修を行うなどしてスタッフの資質向上を図ることが必要である。



企画のポイント

障がいの有無に関わらず、合理的な配慮によって安心・安全に参加できる事業の実施